SHIMO KITA ZAWA Link Park

下北沢リンク・パークでの取り組み

道路事業用地における暫定利用のあたらしい可能性。

わたしたち北沢PR戦略会議ー駅広部会は、今年度より「下北沢リンク・パーク」という試みをはじめました。これは、いずれ工事が行われる予定地を、広場としてオープンしていく試みです。

工事が行われるまでの猶予期間に、それをふさいでしまわないで開放することは、これまでも数カ所で行われてきました。しもきたスクエア（ピーコック前）やアイパーク（栄通り）などがそれになります。これらは、世田谷区の所有地を、地元商店街や町会のみなさんが管理・運営をになうかたちで使われています。

リンク・パークは下北沢一番街商店街ー栄通りに位置しています。一番街商店街とわたしたち駅広部会との協働作業として、このこころみはスタートしました。

少しづつですが、創意工夫をこらしながら、暫定利用のあたらしい可能性を探している最中です。

「下北沢リンク・パーク」は、公益信託世田谷まちづくりファンド・まちづくり活動部門の助成をいただいて活動しています。

【下北沢リンク・パーク協力団体】
下北沢一番街商店街、しもきた商店街振興組合、東会商店街
南口商店街、代沢通り共栄会、新栄商店会
北沢二丁目協和会
北沢総合支所　街づくり課、北沢総合支所　拠点整備担当課

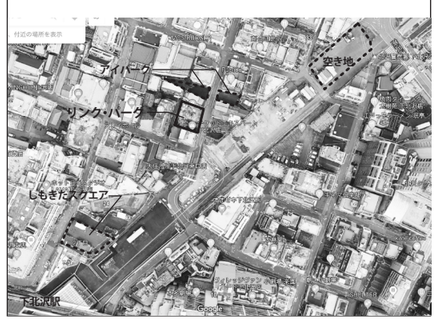
1

点在する空地。

現在、下北沢駅前では工事の進捗に伴い、工事予定地が**空地**として可視化されている状況です。この空地を可能なかぎり、生活者や来街者に有効な**オープンスペース**として開いていくことをわたしたちは実現したいと考えています。これは**仮設の土地利用の可能性**を探る試みであり、いずれ最終的な工事の完成形に至るまでに、空白を極力生み出さないことを目指しています。

街は、空間としても時間としても、またひとともひとのつながりの上でも連続性を持っています。わたしたちは「**下北沢リンク・パーク**」が、その連続性を絶やさずにより生きた街へと下北沢をつなげていくための力になるであろうと、位置づけています。

また、そのためには**実際の管理・運営**を担う者がいなければ叶いません。これまで世田谷区をはじめ、しもきたスクエア（しもきた商店街振興組合・北沢二丁目協和会）やアイパーク（下北沢一番街商店街）の管理・運営について、さまざまな苦労があったこと伺っています。わたしたちもその中に入って、一緒に手を動かし汗をかきながら、この可能性を探っていこうと考えています。



2

いま必要とされる機能。

いまの下北沢の街の中で、必要とされながらまだまだ足りていないものは何でしょうか。わたしたちは、まずリンク・パークに**何もしないでただ座っていられる**ためのハコを置いてみることにしました。そして、これを特徴的な青色で塗りました。

下北沢は歩いて回遊することがたのしい街です。ですが、ちょっと腰をかける場所がありません。また、それにふさわしい木陰をつくる緑も足りていません。そこで、リンクパークではさまざまなアイディアがある中からまずはとにかく、座っていられる場所をつくってみることにしました。結論からいうと、多くのみなさんが、座る場所を求めているのだということを実感しています。

リンク・パークと並行するように「小田急線路街・空き地」がオープンしました。そして、あちらには平日の日中を通して多くのお子さんが訪れています。子供たちの遊び場が無い、それを安心して見守りながら親が過ごせる場所が無い、そのような声を多く聞きます。

わたしたちリンク・パークも同様に、時には子供の遊び場としてもオープンして行きたいと考えました。そこで10/27（キッズハロウィン開催日）に北沢おせっかいクラブ/boccに主催していただき「**ストリートプレイ（みちあそび）**」を開催するに至りました。そして、昼間の4時間の間に700〜800人ものお子さん・親御さんが来場されました。この日は下北沢への来訪者が特に多かったと思われますが、日常生活の中でも、このような暫定の空間利用を進めて行くことを計画しています。

街の喫緊の課題として、ゴミ問題や、街の案内などがあげられます。それらに対してもリンク・パークの場所を通じて、アイディアや、一緒に活動していける仲間を、掘り起こしていきたいと考えています。いま現在はわたしたちの運営体制が力至らず、週末を中心にオープンしていますが、平日の日常の中でこそ、必要とされていると認識しています。

ハコの青色は、塗るひとそれぞれがペンキを調合したために、さまざまな濃淡のある青色となっています。わたしたちは、その様子が、さまざまなひとが生活し活動する下北沢にこそふさわしいと考えました。

3

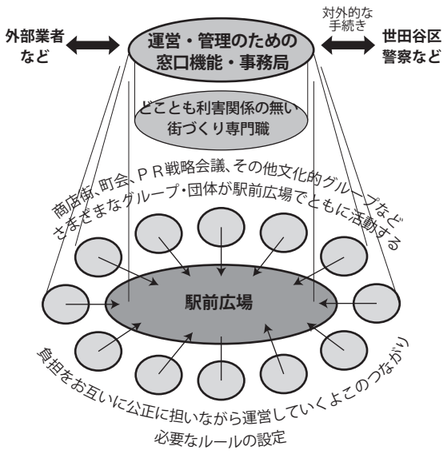
これからの街へむけて。

わたしたちがリンク・パークのプロジェクトを考えるに至った背景には、やがてできあがるあたらしい駅前広場の運営・管理を担う団体の必要を想起したことにありました。それは、**オール下北沢**とでもいうべき様々な団体が集まり知恵と汗を出し合ういわば協議会的な公正な、大きな団体をイメージしています。右図のちいさな○が駅前広場に集まり、横につながりながら、その中核を担います。よこにつながり環になる様子から**リンク**という言葉にたどり着きました。

またこのリンクをまとめ、さまざまな手続きを担う窓口も必要となります。できれば公正な立場の街づくり専門家を置き、これまで**どこにもなかった下北沢でこそ実現できるあたらしい組織**をデザインすることをこころみたいと考えています。エリアマネジメントの枠にとらわれることのない、あたらしい組織です。あたらしい**下北沢スタイル**の街づくりといえるかもしれません。そのために、下北沢が内包するさまざまな団体や文化が、目に見える場所に出てこられるようにしなければならないと考えます。

リンク・パークは、その場所づくりを目指して、まずはスタートしました。そして、すでに他のグループともこの場所でつながり始めています。引き続き多くのつながりをつくっていきたいと考えています。

実際の運営には、費用を捻出し回していく仕組み、ルールを取り決め周知していく仕組み、それを担う人材などさまざまな課題があります。その仕組みが、どのような姿ならこれからの下北沢にふさわしいのか。まずはそこから、みなさんと一緒に話し合っていこう、そう考えています。



将来の駅前広場運営のイメージ図

ストリートプレイ（みちあそび）の様子。これからも、継続的に開催していく予定です。

シモキタテーブル vol.4

発行：駅広部会ー北沢 PR 戦略会議 2019.11.03
http://shimokita-table.com/

小田急電鉄の HP「シモチカナビ」で工事の詳細を知ることができます。
どうぞ、ご参考に。
http://www.shimochika-navi.com/99_backnumber/index.html